【日本の大学】第 21 回―――立命館アジア太平洋大学：多言語環境の本格的国際大学

立命館アジア太平洋大学は、京都を拠点に 100 年の歴史を持つ学校法人立命館が、九州の大分県別府市に、地元大分県や別府市の協力を得て設立した私立大学である。世界各国・地域から集まる国際色豊かな学生たちが半数を占め、教員も約半数が外国籍という多文化・多言語の環境を持つ、新しいコンセプトからなる本格的な国際大学である。英語名は Ritsumeikan Asia Pacific University（通称 APU)、本部は大分県別府市にあり、設立は 2000 年の 4 月で歴史は新しい。

日本語と英語の 2 言語教育システムを展開、高度な言語運用能力の獲得とともに、世界の優秀な若者への日本留学の道筋を切り拓いている。開学以来、短期間で 155 の国・地域から学生を受け入れている。

アジア太平洋の未来創造

大学の基本理念として「自由・平和・ヒューマニティ」、「国際相互理解」、「アジア太平洋の未来創造」を掲げており、国際社会に貢献する人材を養成している。開学に当たり、こうした基本理念を踏まえて、「世界各国・地域から未来を担う若者が集い、共に学び、生活し、相互の文化や習慣を理解し合い、人類共通の目標を目指す知的創造の場として、ここに開学を宣言する」とうたった。

以下、大学のホームページなどから現状を見ていこう。

大学設立構想は 1995 年に始まった。9 月に大分県、別府市、立命館の三者による新設の共同会見を開き、翌 10 月に設置準備委員会を発足させた。96 年以降、アドバイザリー・コミッティの設立、大学の名称決定、キャンパス造成工事着工（97 年）、文部省の設置認可（99 年）と進み、2000 年 4 月に設置され、翌 5 月に開学記念式典が開催された。

学部は「アジア太平洋学部」と「国際経営学部」の 2 学部で、入学定員はそれぞれ 660 名。2 年次、3 年次に若干名の定員を設けており、学部収容定員の合計は 5480 名となっている。また、大学院は 2003 年に「アジア太平洋研究科」と「経営管理研究科」の 2 科で開設され、合計の収容定員は 230 名である。

地域と経営に力点

アジア太平洋学部は、同地域の多様な政治、経済、社会、文化などに関する総合的な理解の上に立って、国際社会、環境と開発、観光などに関する基礎的および専門的知識を修得する。言語能力、コミュニケーション能力、問題解決能力を養い、この地域が直面する多様な諸課題を理解することにより、持続的な発展と共生に貢献できる人材を養成することを目的にしている。

国際経営学部では、マネジメントに関する基礎的な知識を伝授し、異文化コミュニケーシ

ョン能力を強化することを通じて、グローバル化する企業やその他組織における経営上の諸問題を解決できる職業倫理を備えた人材の育成をその使命としている。

実際の学生数（2020 年 5 月現在）は学部が 5475 名、大学院 197 名、科目等履修生などが 73 名となっている。これに対し専任教員は 167 名で、うち外国籍教員が 23 か国・地域の 80 名である。

大学を支援する態勢にも特色がある。アドバイザリー・コミッティを設置し、各国の首脳や大使、企業人など 238 名が、また、アカデミック・アドバイザーとして研究者やノーベル賞受賞者など 45 名がそれぞれ、任命されて重要な役割を果たしている。

また、海外の大学や研究機関との協定も多く、その数は、74 か国・地域、485 の大学・研究機関などと関係を結んでいる。そのうち 51 か国・地域、163 の大学・研究機関とは交換留学生プログラムを作成、実施している。（2020 年 5 月現在）

卒業式

柔軟な入試制度

柔軟な入試制度を取っているのも大きな特色である。世界各国地域から意欲溢れる学生の受け入れを可能とするため、春と秋の 2 回、入学できる制度を設けている。言語も日本語

と英語のいずれかで入学選考を受けることができる。入学後も学内の配布資料や掲示は、日英 2 言語で表記され、ガイダンスも両方で行われる。

キャンパスでの公用語も日本語と英語の両方で、学部講義のほぼ 90%は 2 言語で開講されている。入学後は集中的な言語学習で英語や日本語を学ぶだけでなく、専門科目を英語、日本語で学ぶことで、国際ビジネスや学術の世界で通用する高度な言語運用能力と専門知識の習得につなげている。

課外活動や地域との交流も盛んで、国内外でほぼ半分ずつの学生が別府市内のキャンプ場に集い、1 泊 2 日でゲームやハイキング、料理作りなどを通して異文化交流を行う「マルチカルチュラル・キャンプ」。春と秋の 2 回、数か国・地域にスポットを当てて、その国・地域の言語や文化を週替わりで紹介する「マルチカルチュラル・ウィーク」などの国際色豊かな行事が、例年実施されている。

学生さんたちの交流会

また、向こう 10 年を見据えて、学生、校友、父母、教職員が一体となって議論を重ね、2030 年のあるべき姿（将来像）を示す「APU2030 ビジョン」も策定された。

これは、「開学宣言」を踏まえて作成されたもので、それによると「多文化が共生する国

際社会には多様な価値観が存在し、対立や摩擦が否応なく生じる。異なる文化と価値観の違いを認めて理解し合い、自由で平和な世界を築く『世界市民』を育成する。これが、APU が目指す『自由・平和・ヒューマニティ』『国際相互理解』『アジア太平洋の未来創造』という理念の核心である。APU で学んだ一人ひとりが、自由と平和を追求する人間として、人間の尊厳に対する畏敬の念を抱き、世界で、日本で、それぞれの住む地域や立場で、他者のために、社会のために行動することにより、世界が変わる」としている。

さらに、「世界を変える」ひとを育てるために APU は

・比類ない多国籍・多文化環境を活かして、世界市民として成長するための学習や活動の機会および生活環境を提供し、世界に誇るグローバル・ラーニング・コミュニティを創成する。

・教育・研究の質を絶え間なく向上させ、世界で通用する新たなグローバル・ラーニングの価値を創造する。

・APU の財産である世界中の卒業生や地域社会のステークホルダーとのつながりを深化させ、教育活動や大学運営で協働する。

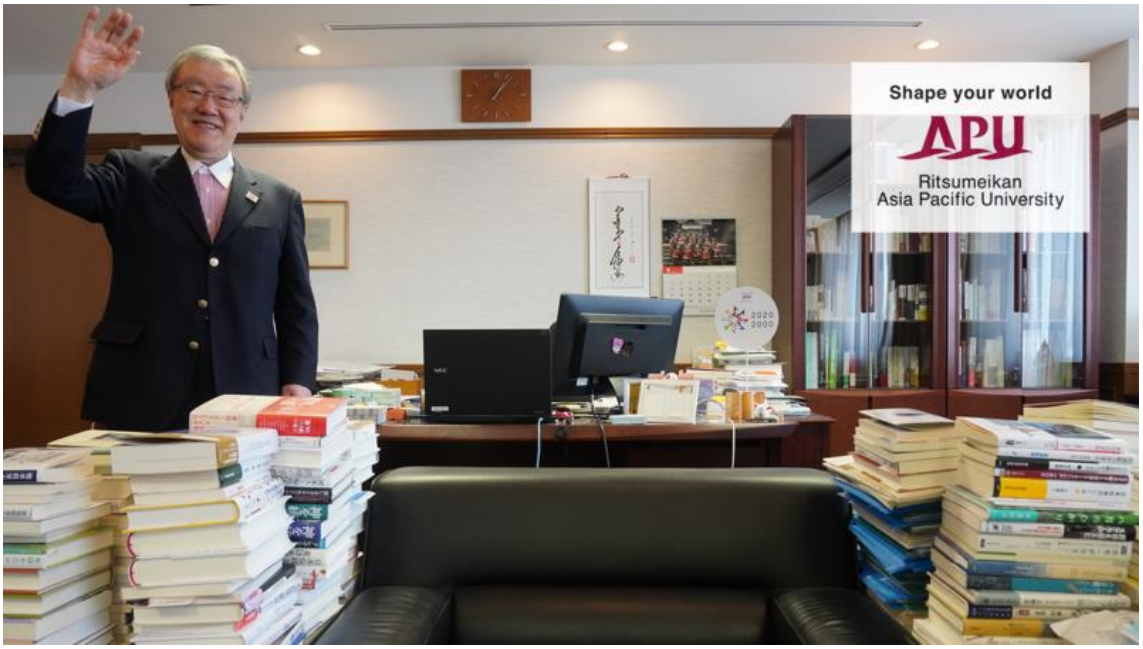
―――などをうたい上げている。

入学式

2020 年世界大学ランキング日本版で、APU は総合順位で 21 位（前年 27 位）に急上昇したが、その中で、国際性と教育充実度で高いスコアを示した。国際性では国際教養大学に次いで 2 番手に付け、教育充実度でも、全大学の中でトップクラスに位置している。

グローバル化が進んだ国際大学である APU では、2020 年春からの新型コロナウィルス禍に遭遇して、非常に厳しい環境に置かれた。春学期の授業はすべて「オンライン」で実施し、秋授業についても「対面＋オンライン」もしくは「オンライン」のいずれかの方法で授業を行っている。世界の約 90 の国・地域から学生が集まっているため、入国制限などによって入国できない学生も多い。8 月には APU 学生 13 名、卒業生 1 名の計 14 名の感染も確認された。

現在の学長は第 4 代の出口治明氏である。立命館の副理事長を兼務しており、2018 年 1 月に就任した。その際の選出方法は、全国の大学でも例をみない公募というプロセスを経て、外国籍の委員 4 名を含む多様性のある選考委員によって選出された。任期満了に伴う 2020 年 11 月の学長選挙には立候補を表明したうえで、公募で再度、学長に選出された。21 年 1 月から 3 年間、2 期目の学長を務めることとなった。



学長出口治明氏

同氏は、京都大学法学部を卒業、日本生命保険に入社、同社でロンドン現地法人社長や国際業務部長などを務めた後、退職してライフネット生命保険会社を創業するなど実業家でもある。読書家としても知られ、著書も多い。

日文：滝川　進

写真：立命館アジア太平洋大学 HP